

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識			整理番号	
I-1	出題分野	ガイドブック 基準・解説	11建築積算と施工技術 11.3標準的な施工プロセス 11.3.1バーチャート工程表とネットワーク工程表 P.267～268	正答肢番号
設 問			解 説	
<p>工程表に関する次の記述のうち、<b>最も不適切なもの</b>はどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 工程表上で、工程・出来高の進捗チェックに有効なものとしてS字曲線がある。</li> <li>2. ネットワーク工程表は、必要な資機材の納入時期が検討しやすい。</li> <li>3. バーチャート工程表は、部分変更が全体に与える影響を発見しにくい。</li> <li>4. ネットワーク工程表は、重点管理ポイントが明確に表現できない。</li> </ol>			<p>ネットワーク工程表は、重点管理ポイントが明確に表現できる。</p>	
			4	

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識			整理番号	
I-2	出題分野	ガイドブック	11建築積算と施工技術 11.4特殊構法・新技術 11.4.1新しい建築材料 P.288～290	
		基準・解説		
設 問			解 説	
<p>新しい建築材料に関する次の記述のうち、<b>最も不適切なもの</b>はどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 耐候性鋼は、鋼に銅、クロム、ニッケルなどを微量添加することで、内部に腐食を侵行しにくくした鋼材である。</li> <li>2. RC造に高強度鉄筋を使用する主な要因は、コンクリートを高強度化せずに効率的に躯体強度を高めるためである。</li> <li>3. 超高強度鉄筋や太径の鉄筋の継手においては、溶接継手や機械式継手が採用されることが多くなっている。</li> <li>4. 高強度コンクリートに、一般のコンクリートと同じ充填性を確保するためには、より流動性を高くする必要がある。</li> </ol>			<p>RC造に高強度鉄筋を使用する主な要因は、コンクリート強度と鉄筋強度にはバランスが必要で、コンクリートのみを高強度化しても効率的な躯体(RC造)とすることができないからである。</p>	
			2	

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識			整理番号	
I—3	出題分野	ガイドブック	11建築積算と施工技術 11.4特殊構法・新技術 11.4.4逆打工法 P.294～296	
		基準・解説		
			正答肢番号	1
設 問			解 説	
<p>逆打工法に関する次の記述のうち、<b>最も不適切なもの</b>はどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地下躯体工事は層ごとに根切り底での作業になるため、層ごとに仮設足場が必要となる。</li> <li>2. 1階床を作業スペースとして利用できるため、仮設栈橋が不要となる。</li> <li>3. 山留め平面形状が不整形で、大平面の地下掘削にも対応が可能である。</li> <li>4. 地下工事がスラブ下となり、クレーンなどの使用が制限されるため、躯体工事の施工性が悪い。</li> </ol>			<p>地下躯体工事は層ごとに根切り底での作業になるため、仮設足場を必要としない。</p>	

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識			整理番号	
I-4	出題分野	ガイドブック	11建築積算と施工技術 11.3標準的な施工プロセス 11.3.5基礎・地下躯体工事(RC造・SRC造の場合) P.278～279	
		基準・解説		
設 問			解 説	
<p>基礎・地下躯体工事に関する次の記述のうち、<b>最も不適切なもの</b>はどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基礎躯体の合理化には、重機作業に適した部材を利用する工法を選択することが必要である。</li> <li>2. 建物の規模が大きい場合、労務や資機材の投入量を平準化するため、適切な大きさに工区分割することが一般的である。</li> <li>3. 地下躯体工事は、地上躯体に比べて労務投入量も多く作業能率がよいので、工法および工程計画の検討は容易である。</li> <li>4. 基礎躯体については、二重ピットの有無が工期のみならず施工手順そのものにも影響する。</li> </ol>			<p>地下躯体工事は、地上躯体に比べて山留めや構台などによる制約が多いうえ、工法の合理化が最も遅れているパートでもある。作業能率が悪く労務投入量も多いので、工法計画と共に工程計画を十分検討しなければならない。</p>	
			3	

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識			整理番号	
I—5	出題分野	ガイドブック	11建築積算と施工技術 11.2構法と工法 表11.1構造形式の特性比較 P.265	
		基準・解説		
設 問			解 説	
<p>構造形式の特性に関する次の記述のうち、<b>最も不適切なもの</b>はどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>S造は、粘り強く剛性に優れるが、高熱化で強度が低下するので耐火被覆が必要である。</li> <li>RC造は、コンクリートと鉄筋を一体とした架構で、コンクリートは圧縮力、鉄筋は引張力を負担する。</li> <li>S造は、鉄骨などの工場製作部材の比率が大きく、現場作業が少ないため、工期はRC造と比べて短くなることが多い。</li> <li>SRC造は、S造とRC造を組み合わせた構造で、一般にS造よりも鉄骨量を多く必要とする。</li> </ol>			<p>SRC造は、S造とRC造を組み合わせた構造で、一般にS造よりも鉄骨量が少なくすむ。</p>	
			4	

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識			整理番号	
I—6	出題分野	ガイドブック	11建築積算と施工技術 11.3標準的な施工プロセス 11.3.4山留め工事(SMW、腹起こし、切梁)、土工事 P.273～277	
		基準・解説		
設 問			解 説	
<p>山留め工事に関する次の記述のうち、<b>最も不適切なもの</b>はどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 親杭横矢板工法は、安価なため一般的に採用されている。</li> <li>2. SMW工法は止水性に乏しいが、剛性に優れている。</li> <li>3. 構台面積は、掘削面積の30%以内が経済的で施工性も良いといわれている。</li> <li>4. 山留め壁と地下躯体外壁の空隙の有無は、工期に影響を与える。</li> </ol>			<p>SMWは止水性と剛性に優れた工法である。</p>	

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識			整理番号	
I-7	出題分野	ガイドブック 基準・解説	1 建築積算とは 1.1建築積算の定義 1.2建築積算の目的 P.2～3	正答肢番号
設 問			解 説	
<p>建築積算の定義および目的に関する次の記述のうち、<b>最も不適切なもの</b>はどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 建築積算とは、企画段階から下流の維持管理保全段階まで、すべてのプロセスにおける利益管理に関与する。</li> <li>2. 狭義の建築積算とは、設計図や仕様書などから各工事に必要な数量を細目別に計測・計算し、工事価格を算定することである。</li> <li>3. 建築積算の目的は、企画段階から建築物のライフサイクル全般にわたって、プロジェクトのコストマネジメントをおこなうことである。</li> <li>4. 建築積算とは、従来は設計が完了し施工に入る前に、対象物件の工事費を算定することが主目的であった。</li> </ol>			<p>建築積算とは、企画段階から下流の維持保全段階まですべてのプロセスにおけるコストに関与する。</p>	
			1	

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識			整理番号	
I-8	出題分野	ガイドブック 基準・解説	1 建築積算とは 1.3建築積算の役割 1.4 建築積算の活動領域 P.4～5	
設 問			解 説	
<p>建築積算の役割および活動領域に関する次の記述のうち、<b>最も不適切なもの</b>はどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 建築積算の社会性とは、建築コストの公平性、妥当性、透明性などを担保することである。</li> <li>2. 建築生産活動は、設計、建築積算、構造計算のトライアングルで成り立っている。</li> <li>3. 建築積算は、社会的、経済的、人間的な要請により活動領域が拡大していく。</li> <li>4. 建築積算は、コストマネジメントによって、建築産業の健全さを高める役割が期待されている。</li> </ol>			<p>建築生産活動は、設計、施工および建築積算のトライアングルで成り立っている。</p>	
			正答肢番号	
			2	

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識			整理番号	
I-9	出題分野	ガイドブック 2 建設産業について 2.3 建築生産プロセスとコストマネジメント P.15～17	正答肢番号	
	基準・解説		3	
設 問			解 説	
<p>建築生産プロセスの主要局面と、事業主からみた発生するコストに関する次の組合せのうち、<b>最も不適切なもの</b>はどれか。</p> <p>1. 企画            ---    調査費  2. 施工            ---    工事監理費  3. 維持保全        ---    運用費  4. 解体            ---    処理費</p>			<p>表2.1 建築生産プロセスの主要局[面]における、事業主からみたコスト</p> <p>維持保全には、設計費、修繕費、改修費などがあるが、運用費は含まれない。</p>	

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識			整理番号	
I—10	出題分野	ガイドブック 3 工事の発注・契約 3.1発注方式 P.22～24 基準・解説	正答肢番号	
設 問			解 説	
<p>工事の発注方式に関する次の記述のうち、<b>最も不適切なもの</b>はどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. PFI方式は、事業のライフサイクルコストの削減を図ることを目的とする民間工事発注の一手法である。</li> <li>2. 民間工事は、一般に設計施工分離方式が採用されているが、公共工事に比べて、設計施工一括方式も多く採用されている。</li> <li>3. 公共工事は原則として、建築工事、電気設備工事、機械設備工事および昇降機設備工事をそれぞれ分離して発注している。</li> <li>4. 民間工事では、基本計画と基本設計を除く実施設計と施工を一括して発注する方式を採用する場合もある。</li> </ol>			<p>PFI方式は、事業のライフサイクルコストの削減を図ることを目的とする公共調達の一手法である。</p>	
			1	

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識			整理番号	
I—11	出題分野	ガイドブック 基準・解説	3 工事の発注・契約 3.3 契約選定方式の種類 P.26～27	正答肢番号
設 問			解 説	
<p>施工者選定方式および設計者選定方式に関する次の記述のうち、<b>最も不適切なもの</b>はどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 随意契約による方式として、特命随意契約とリバースオークション方式がある。</li> <li>2. コンペには、参加者を限定する指名コンペと、だれでも参加できる公募コンペがある。</li> <li>3. プロポーザルとは、複数の者に目的物に対する企画案を提案してもらい、そのなかから、優れた提案をおこなったものを特定する方式のことである。</li> <li>4. 最近では、設計についても工事の発注と同様に、技術提案と価格の両方を総合的に評価する、総合評価落札方式を採用するものもある。</li> </ol>			<p>3.3.1 設計者選定方式の種類</p> <p>随意契約による方式として、特命随意契約と見積合わせがある。</p>	
			1	

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識			整理番号	
I—12	出題分野	ガイドブック 基準・解説	3 工事の発注・契約 3.4 契約方式 P.28～29	正答肢番号
設 問			解 説	
<p>建築工事の契約方式に関する次の記述のうち、<b>最も不適切なもの</b>はどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 建築工事の契約方式には、大別すると、単価請負契約、総価請負契約、実費精算契約の3種類がある。</li> <li>2. 建築工事の請負契約のほとんどは、単価請負契約で実施されている。</li> <li>3. GMP付き実費精算契約とは、請負者が工事費の最高限度額を保証して契約する方式である。</li> <li>4. 総価請負契約とは、代価の総額を請負代金額として定めている請負契約をいう。</li> </ol>			<p>3.4.1 総価請負契約</p> <p>建築工事の請負のほとんどは、総価請負契約で実施されている。</p>	

設 問	解 説
-----	-----

公共建築工事の標準仕様書における、設計図書の優先順位に関する次の㉠～㉦の組合せのうち、**最も適切なもの**はどれか。

優先順位高い		>		優先順位低い	
1.	㉠	㉡	2.	㉢	㉣
1.	設計図	質問回答書	3.	現場説明書	標準仕様書
2.	設計図	特記仕様書	4.	現場説明書	質問回答書
3.	質問回答書	特記仕様書		標準仕様書	現場説明書
4.	質問回答書	現場説明書		設計図	標準仕様書

質問回答書を最優先にする。  
 その他の優先順位は下記の通りである。

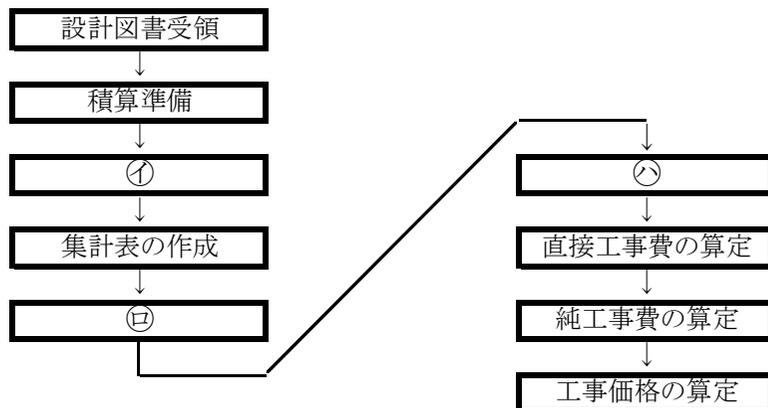
- (2) 現場説明書(見積要項書)
- (3) 特記仕様書
- (4) 設計図
- (5) 標準仕様書(または共通仕様書)

4

設 問

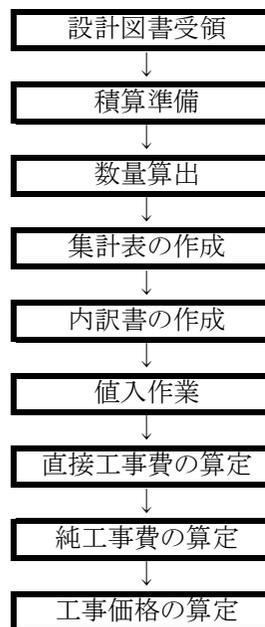
解 説

建築積算業務の流れに関して、㊶、㊷、㊸に当てはまる次の組合せのうち、**最も適切なもの**はどれか。



	㊶	㊷	㊸
1.	数量算出	内訳書の作成	値入作業
2.	値入作業	数量算出	内訳書の作成
3.	数量算出	値入作業	内訳書の作成
4.	内訳書の作成	数量算出	値入作業

建築積算業務の流れとしては、設計図書を受け取り、図面の確認後、各々作業分担をし、数量算出を行う。その後、内訳書作成、値入作業後、直接工事費を算出し、純工事費を算出したのち、工事価格を決定する。



I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識			整理番号	
I—15	出題分野	ガイドブック 6 建築積算業務の実際 6.17 概算 6.17.3 基本設計段階 P.199～201	正答肢番号	
	基準・解説		3	
設 問			解 説	
<p>基本設計段階の概算に関する次の記述のうち、<b>最も不適切なもの</b>はどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 杭は、種別ごとの長さを計上するか、仕様ごとの本数を計上する。</li> <li>2. 内部仕上は、個々の部屋ごとに床・壁・天井の数量を算出した方が、合理的で誤差も少ない。</li> <li>3. 雑物(ユニット物)は、図面に記載された内容以外のものは算出する必要がない。</li> <li>4. 共通費の定型化した工事内容は、直接工事費に対する比率などで算出する。</li> </ol>			<p>雑物(ユニット物)は、図面に記載された内容以外にできるだけ想定も含めて算出する。</p>	

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識			整理番号	
I—16	出題分野	ガイドブック 6 建築積算業務の実際 6.17概算 6.17.2 基本計画段階 P.196～197	正答肢番号	
	基準・解説		1	
設 問			解 説	
<p>工事費の概算に関する次の記述のうち、<b>最も不適切なもの</b>はどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. コストコントロールは、実施設計段階に力点を置いておこなうべきである。</li> <li>2. プロジェクトの全体スケジュールを勘案し、設計の進捗度に見合った情報量と、必要かつ十分な概算手法でおこなう必要がある。</li> <li>3. 内訳書の項目数を必要以上に増やし、時間と労力をかければよいというものではない。</li> <li>4. 坪単価や過去の事例からだけでは、精度や、以降のコストコントロールにつながる問題がある。</li> </ol>			<p>コストコントロールは、基本計画および基本設計段階に力点を置いておこなうべきである。</p>	

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識			整理番号	
I—17	出題分野	ガイドブック 9 市場価格 9.2 価格情報の収集方法と分析 P.223～225	正答肢番号	
	基準・解説		3	
設 問			解 説	
<p>価格情報の収集方法と分析に関する次の記述のうち、<b>最も不適切なもの</b>はどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 歩掛りに資材や労務などの単価を乗じることにより、複合単価を算定できるが、実勢価格と乖離する場合もある。</li> <li>2. 価格調査機関の発行している刊行物により、資材単価や工事費の複合単価などを得ることができる。</li> <li>3. 専門工事会社やメーカーなどからの見積は、見積金額のまま採用するケースが多い。</li> <li>4. 公表価格は、施工条件にあった価格の調査が必要で、取引条件を明確にすることにより、値引きされるケースが多い。</li> </ol>			<p>9.2.1 細目単価</p> <p>一般的には、複数の会社から見積書を徴集して比較し、実績値を分析して係数掛けし、見積金額を割り引く場合が通常である。</p>	

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識			整理番号
I—18	出題分野	ガイドブック	6 建築積算業務の実際 6.16 値入業務 6.16.2 工事科目ごとの注意点 P.182～183
	基準・解説		正答肢番号
設 問		解 説	
<p>値入業務に刊行物単価を採用する際の注意点に関する次の記述のうち、<b>最も不適切なもの</b>はどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. AE減水材が標準型の場合は、各地域の掲載単価に含まれている。</li> <li>2. 高炉セメントには、割引単価があるので注意を要する。</li> <li>3. 鉄筋の加工が工場加工の場合は、運搬費を別途計上する。</li> <li>4. 溶接閉鎖型筋は、現場渡しの単価なので、取付費は含まれている。</li> </ol>		<p>溶接閉鎖型筋は、現場渡しの単価なので、取付費は別途計上する必要がある。</p>	
		4	

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識			整理番号	
I—19	出題分野	ガイドブック 基準・解説	14 改修工事 P.314～316	正答肢番号
設 問			解 説	
<p>改修工事に関する次の記述のうち、<b>最も不適切なもの</b>はどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 建物の長期的な活用や建物の長寿命化は、廃棄物の削減や省資源、省エネルギーに繋がる。</li> <li>2. 新耐震設計基準施行以前の建築物は、原則として、改築または耐震補強が必要である。</li> <li>3. 改修工事は、安全向上、設備更新、ICT対応などの要因ごとに単独で実施するケースが多い。</li> <li>4. 「居ながら工事」となる場合は、入居者の都合による工事可能な時間の制約が厳しい。</li> </ol>			<p>14.2 改修工事の特徴</p> <p>14.2.1 複数要因工事への理解と対応</p> <p>安全向上、設備更新、ICT対応の複数要因を一度に合わせて実施されるケースが多い。</p>	
			<b>3</b>	

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識			整理番号	
I—20	出題分野	ガイドブック 基準・解説	6 建築積算業務の実際 10 チェックおよびデータ分析 10.3.2 数量データ P.251～252	正答肢番号
設 問			解 説	
<p>数量データの分析および活用に関する次の記述のうち、<b>最も適切なもの</b>はどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基礎、地下、地上部に分類すると、データの活用が難しい。</li> <li>2. 内部壁数量データに、パーティションおよび可動間仕切を含めると良い。</li> <li>3. 外壁仕上面積は、平面形状による変化が大きい。</li> <li>4. 型枠数量歩掛りは、建築物形状、階数などによる変化が小さい。</li> </ol>			<p>外壁仕上面積(特に床面積に対する比率)は、平面形状等により大きく変化する。</p>	
			3	

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識			整理番号	
I-21	出題分野	ガイドブック 基準・解説	6 建築積算業務の実際 6.14 設備の積算 6.14.2 内訳書の構成 (3) 工事科目 P.177～178	正答肢番号
設 問			解 説	
<p>建築設備に関する工事科目の分類で、空気調和設備の工事科目として次のうち、<b>最も不適切なもの</b>はどれか</p> <p>1 換気設備 2 消火設備 3 空調ダクト設備 4 自動制御設備</p>			<p>消火設備は給排水衛生設備に分類する。</p>	
			2	

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識				整理番号	
I - 22	出題分野	ガイドブック 基準・解説	6. 建築積算業務の実際 6.16.4 設備の値入業務	P191～193	正答肢番号
設 問			解 説		1
<p>設備工事の値入業務に関する次の記述のうち、<b>最も不適切なもの</b>はどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複合単価は材料費、労務費、雑材料費の組合せで構成されるが、下請け経費は含めない。</li> <li>2. 市場単価には専門業者の諸経費が含まれている。</li> <li>3. 複合単価方式で値入する場合の数量は、設計数量を計上する。</li> <li>4. 設備工事の代表的な値入の方法には、複合単価方式と材工別積上げ方式がある。</li> </ol>			<p>複合単価には下請け経費を含める。</p>		

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識				整理番号	
I - 23	出題分野	ガイドブック 基準・解説	10 チェックおよびデータ分析 10.4 設備工事の積算チェック	P258～259	正答肢番号
設 問			解 説		4
<p>設備工事の積算チェックに関する次の記述のうち、<b>最も適切なもの</b>はどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 設備工事で使用する梁貫通スリーブは、一般的にすべて建築工事である。</li> <li>2. 建築工事と設備工事では、工事区分の取合いはない。</li> <li>3. 電気工事と機械設備工事では、工事区分の取合いはない。</li> <li>4. ルーフドレン金物は、一般的に建築工事である。</li> </ol>			<p>表10.9 建築と設備の工事区分例 参照</p> <p>ルーフドレン金物は、一般的に建築工事である。</p>		

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識				整理番号	
I - 24	出題分野	ガイドブック 基準・解説	15 環境配慮とコスト 15.2 環境配慮計画 15.2.1 環境配慮計画の検討 P.322～323		正答肢番号
設 問			解 説		2
<p>環境配慮計画の建築物にかかる環境配慮項目として次のうち、<b>最も不適切なもの</b>はどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 周辺環境保全</li> <li>2. コストダウン</li> <li>3. 省エネルギー・省資源</li> <li>4. エコマテリアルの使用</li> </ol>			<p>建築物にかかる環境配慮項目は、1)周辺環境保全、2)長寿命化、3)省エネルギー・省資源、4)エコマテリアルの使用、5)適正使用・適正処理。</p>		

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識			整理番号
I - 25	出題分野	ガイドブック 基準・解説	12 LCC(ライフサイクルコスト) 12.6 LCC手法活用 P302～303
設 問			正答肢番号
<p>設計計画段階でのLCC(ライフサイクルコスト)低減策に関する次の記述のうち、<b>最も不適切なもの</b>はどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 建築物の維持管理に要する労力を最小限にする設計をおこなう。</li> <li>2. 省エネルギー化を推進し、光熱費の節約をおこなう。</li> <li>3. 建築物の各部材の交換やリニューアルが、経済的かつ計画的におこなえるよう配慮する。</li> <li>4. 設備システム選定上、初期のコストのみを優先させることが重要である。</li> </ol>			4
解 説			
<p>設備システムの故障は即座に施設の機能運営に支障をきたすので、設備システム選定上初期のコストのみならず、運用時の更新・修繕コストとその頻度の把握が極めて重要になっている。</p>			

I 建築一般・建築生産に関する知識および工事費に関する知識			整理番号
I - 26	出題分野	ガイドブック 基準・解説	13 VE(バリューエンジニアリング) 13.1 VEとは (2)VEによる価値向上 P.306～307
設 問			正答肢番号
<p>VE(バリューエンジニアリング)による価値向上の考え方として次のうち、<b>最も不適切なもの</b>はどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 機能維持とコスト低減による価値向上</li> <li>2. コスト維持と機能向上による価値向上</li> <li>3. 機能低減とコスト低減による価値向上</li> <li>4. コスト微増と機能向上による価値向上</li> </ol>			3
解 説			
<p>VEのパターンには機能低減はない。</p>			

II 数量積算の理解に関する知識			整理番号	
II-1	出題分野	ガイドブック 基準・解説	第7章 建築数量積算基準 7.3.1総則の定義 (2)数量とは (4)数値の単位、端数処理 P.207～208 第1編 総則 3、5(4) P.330	正答肢番号
設 問			解 説	
<p>建築数量積算基準の数量および端数処理の原則に関する次の記述のうち、<b>最も不適切なもの</b>はどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 計画数量とは、設計図書に表示されていない施工計画にもとづいた数量をいう。</li> <li>2. 設計数量とは、設計図書に表示されている個数や、設計寸法から求めた正味の数量に材料のロスを考慮した数量をいう。</li> <li>3. 内訳書の細目数量は小数点以下第1位とする。ただし、100以上の場合は整数とする。</li> <li>4. 所要数量とは、定尺寸法による切り無駄や、施工上やむを得ない損耗を含んだ数量をいう。</li> </ol>			<p>設計数量は、材料のロス等については考慮しない。</p>	
			<b>2</b>	

II 数量積算の理解に関する知識			整理番号											
II-2	出題分野	ガイドブック	6 建築積算業務の実際 6.12 仮設 6.12.4 直接仮設 (2) 直接仮設の数量 P.160～161		正答肢番号									
		基準・解説	第2編 仮設 第1章 仮設 第4節 直接仮設の計測・計算 2 各直接仮設の計測・計算 P.332		3									
設 問			解 説											
<p>建築数量積算基準の仮設で定める細目と数量の次の組合せのうち、最も不適切なものはどれか。</p> <table border="0"> <thead> <tr> <th>(細目)</th> <th>(数量)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1. 遣り方</td> <td>---- 建築面積</td> </tr> <tr> <td>2. 墨出し</td> <td>---- 延床面積</td> </tr> <tr> <td>3. 内部足場</td> <td>---- 建築面積</td> </tr> <tr> <td>4. 地足場</td> <td>---- 建築面積</td> </tr> </tbody> </table>			(細目)	(数量)	1. 遣り方	---- 建築面積	2. 墨出し	---- 延床面積	3. 内部足場	---- 建築面積	4. 地足場	---- 建築面積	<p>内部足場の数量は、延床面積とする。</p>	
(細目)	(数量)													
1. 遣り方	---- 建築面積													
2. 墨出し	---- 延床面積													
3. 内部足場	---- 建築面積													
4. 地足場	---- 建築面積													

II 数量積算の理解に関する知識			整理番号
II-3	出題分野	ガイドブック 6 建築積算業務の実際 6.2 土工 6.2.2 各項目の計測 P.53～54	正答肢番号
		基準・解説 第3編 土工・地業 第1章 土工 第2節 土工の計測・計算 P.333～334	4
設 問		解 説	
<p>土工の計測・計算に関する次の記述のうち、<b>最も不適切なもの</b>はどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 整地とは、設計地盤または現状地盤に沿う敷地の地均しをいい、その数量は指定された範囲の水平面積とする。</li> <li>2. 床付けの数量は、基礎、基礎梁下、耐圧盤下などの砂利地業の面積による。</li> <li>3. 土工について土工計画があるときは、原則としてその計画にもとづいて計測・計算する。</li> <li>4. 基礎梁の根切りの長さは、独立基礎の躯体側面から計測・計算する。</li> </ol>		<p>基礎梁の根切りの長さは、独立基礎の根切側面から計測・計算する。</p>	

II 数量積算の理解に関する知識			整理番号
II-4	出題分野	ガイドブック 基準・解説	6 建築積算業務の実際 6.4 躯体 P.61～84 第4編 躯体 第1章 躯体の定義と区分 第2節 躯体の区分 P.336
設 問			正答肢番号
<p>躯体の計測・計算に関する次の記述のうち、<b>最も不適切なもの</b>はどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 躯体は、積算一般に基礎、柱、梁、床板、壁、階段、その他の各部分に区分する。</li> <li>2. 独立基礎とは、基礎底面から柱または基礎梁との接続面までの部分をいう。</li> <li>3. 柱とは、基礎上面から最上階床板上面までの部分をいい、基礎柱、各階柱、最上階柱に区分する。</li> <li>4. 階段とは、段スラブおよびこれに付随する部分をいい、踊場、手摺壁などは含まない。</li> </ol>			4
			<p>階段とは、段スラブおよびこれに付随する部分をいい、踊場、手摺壁などを含む。</p>

II 数量積算の理解に関する知識			整理番号
II-5	出題分野	ガイドブック 6 建築積算業務の実際 6.4 躯体 P.61～84 基準・解説 第4編 躯体 第2章 コンクリート部材 第2節 コンクリート部材の計測・計算 第3章 鉄筋 P.337、339	正答肢番号
設 問		解 説	
<p>躯体の計測・計算に関する次の記述のうち、<b>最も不適切なもの</b>はどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各部分の計測・計算は、躯体の区分の順序に従いその接続は原則として「さきの部分」に「あとの部分」が接続するものとして計測・計算する。</li> <li>2. コンクリートの断面寸法は、小数点以下第3位まで計測・計算する。</li> <li>3. 鉄筋によるコンクリートの欠除は、鉄筋の所要数量について7.85tを1.0m<sup>3</sup>として換算した体積とする。</li> <li>4. 圧接継手の加工のための鉄筋の長さの変化はないものとする。</li> </ol>		<p>鉄筋および小口径管類によるコンクリートの欠除はないものとする。</p>	
		<b>3</b>	

II 数量積算の理解に関する知識			整理番号
II-6	出題分野	ガイドブック	6 建築積算業務の実際 6.4 躯体 P.61～84
		基準・解説	第4編 躯体 第2章 コンクリート部材 第2節 コンクリート部材の計測・計算 2 各部分の計測・計算 (3) 梁 P.338
設 問			正答肢番号
			2
<p>コンクリートの計測・計算に関する次の記述のうち、<b>最も不適切なもの</b>はどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>床板コンクリートの数量は、設計寸法による板厚と梁などに接する内法面積とによる体積とし、柱との取合い部分の床板の欠除はないものとする。</li> <li>梁のコンクリートの数量は、設計寸法より床板厚さを減じた断面積とその長さによる体積とする。</li> <li>壁のコンクリートの数量は、設計寸法による壁厚と柱、梁、床板などに接する内法面積とによる体積とする。</li> <li>底盤のコンクリート数量は、設計寸法による盤厚と独立基礎、基礎梁などに接する内法面積とによる体積とする。</li> </ol>			<p>梁のコンクリートの数量は、設計寸法による断面積とその長さによる体積とする。</p>

II 数量積算の理解に関する知識			整理番号
II-7	出題分野	ガイドブック	6 建築積算業務の実際 6.4 躯体 P.61～84
		基準・解説	第4編 躯体 第2章 コンクリート部材 第2節 コンクリート部材の計測・計算 1 通則 (2) 型枠 P.337
設 問			正答肢番号
			4
<p>型枠の計測・計算に関する次の記述のうち、<b>最も不適切なもの</b>はどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>柱の型枠の数量は、コンクリートの側面の面積とする。</li> <li>梁の型枠の数量は、コンクリートの側面および底面の面積とする。</li> <li>斜面の勾配が3/10を超える場合は、その部分の上面型枠を計測・計算の対象とする。</li> <li>窓、出入口などの開口部の見込部分の型枠は計測・計算の対象とする。</li> </ol>			<p>窓、出入口などの開口部による型枠の欠除は、原則として建具類などの内法寸法とする。なお、開口部の内法の見付面積が1か所当たり0.5㎡以下の場合は、原則として型枠の欠除はないものとする。また、開口部の見込部分の型枠は計測の対象としない。</p>

II 数量積算の理解に関する知識			整理番号
II-8	出題分野	ガイドブック 基準・解説	6 建築積算業務の実際 6.4 躯体 P.61～84 第4編 躯体 第3章 鉄筋 第2節 鉄筋の計測・計算 1 通則 P.339
設 問		解 説	
鉄筋の計測・計算に関する次の記述のうち、 <b>最も不適切なもの</b> はどれか。			
<ol style="list-style-type: none"> <li>鉄筋の割付本数が設計図書に記載されていない場合は、その部分の長さを鉄筋の間隔で除し、小数点以下第1位を切上げた整数とする。</li> <li>窓、出入口などの開口部による鉄筋の欠除は、原則として建具類など開口部の内法寸法による。</li> <li>径の異なる鉄筋の重ね継手は、小径による継手長さとする。</li> <li>重ね継手または圧接継手について、径13mm以下の鉄筋は6.0mごとに、径16mm以上の鉄筋は7.0mごとに継手があるものとして継手か所数を求める。</li> </ol>		<p>鉄筋の割付本数が設計図書に記載されていない場合は、その部分の長さを鉄筋の間隔で除し、小数点以下第1位を切上げた整数(同一の部分で間隔の異なる場合はその整数の和)に1を加える。</p>	
		1	

II 数量積算の理解に関する知識				整理番号	
II-9	出題分野	ガイドブック 基準・解説	第4編 躯体 第4章 鉄骨 第1節 鉄骨の区分 (1)柱 P.343		正答肢番号
設 問			解 説		3
<p>鉄骨の計測・計算に関する次の記述のうち、<b>最も不適切なもの</b>はどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>鉄骨柱は柱脚ベースプレート下端から最上端までの、柱として工場製作する部分をいう。</li> <li>各節の柱は、最下部の柱を第1節柱とし、上部の柱を逐次第2……第n節柱とする。</li> <li>各節の柱と柱の接合部材は、原則として接合する「さきの部分」に含める。</li> <li>間柱は原則として梁間の長さとする。</li> </ol>			<p>各節の柱と柱の接合部材は、原則として接合する「あとの部分」に含める。</p>		

II 数量積算の理解に関する知識				整理番号																
II-10	出題分野	ガイドブック	6 建築積算業務の実際	6.11.7 金属 (5)軽量鉄骨(LGS)壁下地	P.150															
		基準・解説	第5編・第1章 間仕切下地 第2節 間仕切下地の計測・計算	2 材種による特則	(4)金属材 P.345															
設 問			解 説																	
<p>軽量鉄骨(LGS)壁下地の高さが4.2m、石膏ボード一重張りの時、スタッド幅とスタッド間隔の次の組合せのうち、<b>最も適切なもの</b>はどれか。</p> <table border="0"> <thead> <tr> <th></th> <th>幅</th> <th>間隔(mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.</td> <td>90型 ---</td> <td>450</td> </tr> <tr> <td>2.</td> <td>90型 ---</td> <td>300</td> </tr> <tr> <td>3.</td> <td>65型 ---</td> <td>450</td> </tr> <tr> <td>4.</td> <td>65型 ---</td> <td>300</td> </tr> </tbody> </table>				幅	間隔(mm)	1.	90型 ---	450	2.	90型 ---	300	3.	65型 ---	450	4.	65型 ---	300	<p>ガイドブック</p> <p>② 高さによるスタッド厚の標準的区分 65 型:高さ4.0 m以下 90 型:高さ4.5 m以下</p> <p>③ボード張りによるスタッド@の種類 一重張り:@300 二重張り:@450</p> <p>上記より、高さ4.2mは90型、ボードは一重張りのため、間隔は300mmとなる。</p>		
	幅	間隔(mm)																		
1.	90型 ---	450																		
2.	90型 ---	300																		
3.	65型 ---	450																		
4.	65型 ---	300																		
			2																	

II 数量積算の理解に関する知識				整理番号		
II-11	出題分野	ガイドブック	6 建築積算業務の実際	6.11.1 既製コンクリート (2)ALC パネル	P.147	正答肢番号
		基準・解説	第5編・第1章 間仕切下地 第2節 間仕切下地の計測・計算	2 材種による特則	(2)既製コンクリート材	
設 問				解 説		4
<p>ALCパネルの計測・計算に関する次の記述のうち、<b>最も不適切なもの</b>はどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 部位、工法、厚みなどによって区分し、面積又は設計寸法による枚数を数量とする。</li> <li>2. 開口補強金物、取付金物は、必要に応じて別計上する。</li> <li>3. コーナーパネルなどの役物は、工法、厚みなどによって区分し、別計上する。</li> <li>4. シーリングは、他部材との取合い部分およびパネル間を計測・計算し、別計上する。</li> </ol>				<p>積算基準</p> <p>(2)既製コンクリート材</p> <p>5) ALCパネル、PC板等における取合いシーリングについては、他部材との取合い部分は計測・計算するが、パネル間は計測の対象としない。</p>		

II 数量積算の理解に関する知識				整理番号		
II—12	出題分野	ガイドブック	6 建築積算業務の実際	6.11.10 内外装	P.131～132	正答肢番号
		基準・解説	第5編・第2章 仕上	第1節 仕上の定義と区分	2 仕上の区分	
設 問				解 説		4
<p>内部仕上の区分に関する次の記述のうち、<b>最も不適切なもの</b>はどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 建具類の枠、額縁、膳板、杢摺は内部開口部に属する。</li> <li>2. 床段違い側面、階段蹴上げは床に属する。</li> <li>3. 下がり天井の側面、回縁は天井に属する。</li> <li>4. 独立柱、壁付柱、独立梁、壁付梁は壁に属する。</li> </ol>				<p>積算基準</p> <p>(3)内部仕上</p> <p>4) 内部天井</p> <p>内部天井は、建築物内部の見上げ面をいう。独立梁、下がり天井の側面、回縁等は天井に属するものとし、それぞれに区別する。</p> <p>上記より、独立梁は天井に属する。</p>		

II 数量積算の理解に関する知識				整理番号	
II—13	出題分野	ガイドブック	6 建築積算業務の実際	6.9.2 ガラス	P.144
		基準・解説	第5編・第2章 仕上 第2節 仕上の計測・計算	3 材種による特則 (11)ガラス材	P.351
設 問			解 説		
<p>ガラスの計測・計算に関する次の記述のうち、<b>最も適切なもの</b>はどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 全面がガラスである建具のガラスの数量は、原則として建具の内法寸法による面積を数量とする。</li> <li>2. 額入建具のガラスは、設計寸法に片側0.01mを加えた寸法による面積を数量とする。</li> <li>3. 特殊寸法、特殊形状のガラスは、全体を包含する長方形の面積を数量とする。</li> <li>4. 合わせガラスの中間フィルムは、フィルム張りとして設計寸法による面積を別計上する。</li> </ol>			<p>積算基準</p> <p>1)の文章より1は正しい。</p> <p>2)額入建具等のガラスの計測・計算は、設計寸法による。</p> <p>3)特殊寸法、特殊形状のガラスは設計寸法による枚数またはヶ所数による。</p> <p>4)は基準外であるが、中間フィルムは合わせガラスの一部なのでガラスに含まれる。</p>		
			1		

II 数量積算の理解に関する知識				整理番号		
II-14	出題分野	ガイドブック	6 建築積算業務の実際	6.11.11 ユニットおよびその他 P.153～154		正答肢番号
		基準・解説	第5編・第2章 仕上 第2節 仕上の計測・計算	3 材種による特則 (14)仕上ユニット	P.351	
設 問				解 説		4
<p>仕上の計測・計算に関する次の記述のうち、<b>最も不適切なもの</b>はどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ブラインドは、開口部ごとにか所数または面積を数量とする。</li> <li>2. ユニットとしての浴室、便所は、性能および形状ごとに組数またはか所数を数量とする。</li> <li>3. 黒板、掲示板は、仕様および形状ごとにか所数を数量とする。</li> <li>4. カーテンは、材質、高さごとに、ひだの倍率を掛けた長さを数量とする。</li> </ol>				<p>積算基準</p> <p>5)カーテン、ブラインド等の数量は、建具類等開口部の内法寸法ごとにか所数による。</p> <p>なお、必要があるときは面積とする。</p>		

II 数量積算の理解に関する知識				整理番号	
II-15	出題分野	ガイドブック	6 建築積算業務の実際	6.13 屋外施設等	P.162～168
		基準・解説	第6編 屋外施設等	第4章 植栽	P.353～354
設 問			解 説		
<p>屋外施設の区分と項目の次の組合せのうち、<b>最も不適切なもの</b>はどれか。</p> <p>1. 構内舗装 --- ツリーサークル  2. 屋外排水 --- U型側溝  3. 囲障 --- メッシュフェンス  4. 植栽 --- 植栽基盤</p>			<p>積算基準  第2節 植栽の計測・計算  1 各部の計測・計算  (5)支柱等  支柱、ツリーサークル等の数量は、材質、形状及び寸法ごとの長さ又はか所数を数量とする。</p> <p>上記よりツリーサークルは植栽に区分する。</p>		
					1

II 数量積算の理解に関する知識				整理番号	
II-16	出題分野	ガイドブック 基準・解説	第7編 改修 第2章 躯体改修	P.356	正答肢番号
設 問			解 説		
<p>躯体改修工事の計測・計算に関する次の記述のうち、<b>最も不適切なもの</b>はどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 割裂補強筋は種別ごとに区別し、その数量は設計寸法による長さまたは質量とする。</li> <li>2. あと施工アンカーは種別ごとに区別し、その数量は3%のロスを見込んだ本数とする。</li> <li>3. 開口部を塞ぐ場合の躯体の数量は、開口部の内法寸法により計測・計算する。</li> <li>4. グラウト材の数量は、設計寸法による断面積とその長さによる体積または長さとする。</li> </ol>			<p>積算基準 第2節 躯体改修の計測・計算 2 躯体改修の計測・計算 (2)あと施工アンカー及びスタッドボルトは、種別ごとに区別し、その数量は本数とする。</p> <p>上記より、3%のロスを見込むのは誤り。</p>		

2

II-17

出題分野

ガイドブック 6 建築積算業務の実際 6.2 土工 6.2.2 各項目の計測 P.53~55

基準・解説 第3編 土工・地業 第1章 土工 第2節 土工の計測・計算 2 土の処理の計測・計算 P.333

正答肢番号

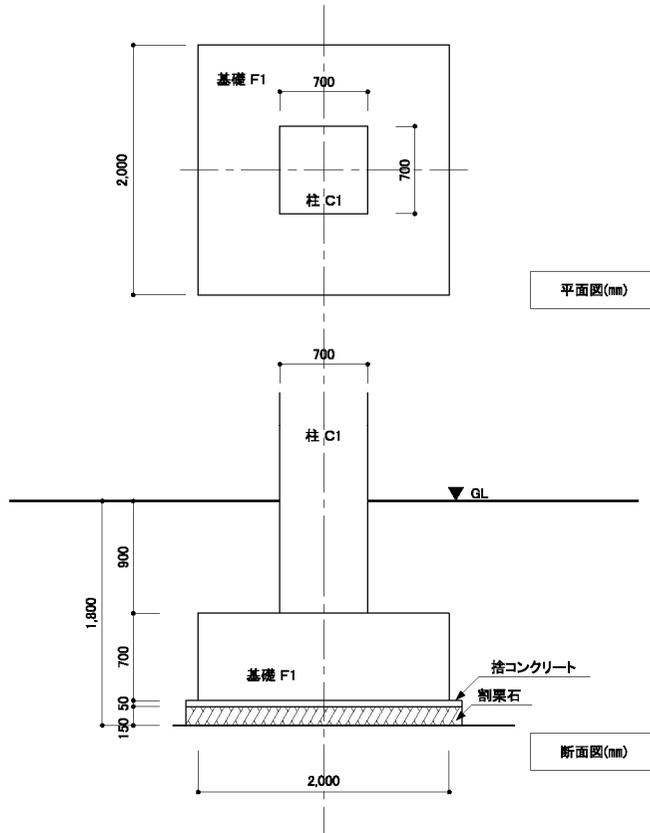
3

設 問

解 説

下図の独立基礎 (F1) 1か所の埋戻しの数量 (m<sup>3</sup>) として、次のうち最も適切なものはどれか。なお、土質は普通土であり、根切土は仮置きし埋戻しに使用する。

- (m<sup>3</sup>)
1. 11.99
  2. 12.87
  3. 18.35
  4. 25.75



根切り高さ H=1,800  
 余巾  $W=500+(1,800 \times 0.30 \div 2) = 770$

$\begin{matrix} H & W & L \\ \text{根切り} & 1.80 \times (2.00 + 0.77 \times 2) \times 3.54 = 22.56 \text{ m}^3 \end{matrix}$

不用土  $\left. \begin{matrix} \text{F1} & 2.00 \times 2.00 \times 0.70 = 2.80 \\ \text{C1} & 0.70 \times 0.70 \times 0.90 = 0.44 \\ \text{地業} & 2.20 \times 2.20 \times 0.20 = 0.97 \end{matrix} \right\} 4.21 \text{ m}^3$

埋戻し  $\text{根切り} - \text{不用土} = 22.56 - 4.21 = 18.35 \text{ m}^3$

II-18

出題分野

ガイドブック 6 積算業務の実際 6.4 躯体 6.4.2 躯体の計測・計算 (2)壁 P.83

基準・解説 第4編 躯体 第2章 コンクリート部材 第2節 コンクリート部材の計測・計算 1 各部分の計測・計算 (5)壁 P.338

正答肢番号

1

設 問

解 説

下図の壁(W20)のコンクリートの設計数量(m<sup>3</sup>)として、次のうち**最も適切なもの**はどれか。

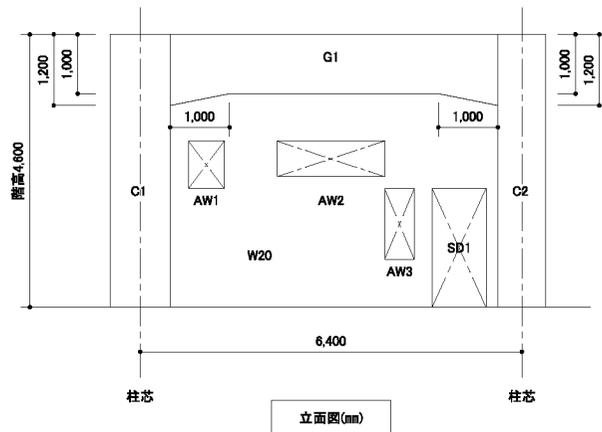
- (m<sup>3</sup>)
1. 3.26
  2. 3.22
  3. 3.16
  4. 3.12

【部材リスト】 (単位mm)

	柱		梁		壁
記号	C1	C2	G1(中央)	G1(両端)	W20
寸法	1,000 × 1,000	800 × 800	W 500 × H 1,000	W 500 × H 1,200	厚 200

【建具リスト】 (単位mm)

記号	SD1	AW1	AW2	AW3
寸法 (W×H)	900 × 2,000	600 × 800	1,800 × 800	500 × 1,200



梁、床板のハンチ等との取り合い部分の壁の欠除はないものとする。

壁	$0.20 \times 3.60 \times 5.50 \times 1 =$	$3.96$	}	3.26 m <sup>3</sup>
SD1	$0.20 \times 0.90 \times 2.00 \times -1 =$	$-0.36$		
AW2	$0.20 \times 1.80 \times 0.60 \times -1 =$	$-0.22$		
AW3	$0.20 \times 0.50 \times 1.20 \times -1 =$	$-0.12$		

II-19

出題分野

ガイドブック 6 積算業務の実際 6.4 躯体 6.4.1 躯体とは (2)型枠 P.63

基準・解説 第4編 躯体 第2章 コンクリート部材 第2節 コンクリート部材の計測・計算 1 通則 (2)型枠 P.337

正答肢番号

3

設 問

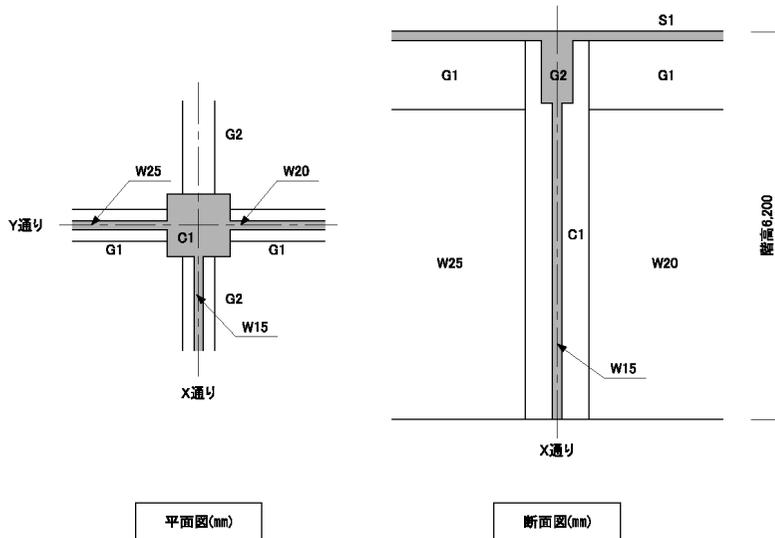
解 説

下図の柱(C1)の型枠の設計数量(m<sup>2</sup>)として、次のうち最も適切なものはどれか。

- (m<sup>2</sup>)
1. 19.32
  2. 20.40
  3. 22.50
  4. 24.80

【部材リスト】 (単位mm)

	柱	梁		床	壁		
記号	C1	G1	G2	S1	W15	W20	W25
寸法	1,000 × 1,000	W 500 × H 1,100	W 500 × H 1,000	厚 150	厚 150	厚 200	厚 250



梁と床板、基礎梁等と底盤、同一幅の柱と梁等及び壁式構造における壁と床板の接続部は、第2章第2節のコンクリート部材の計測・計算2)の定めによる「さきの部分」の接続部の型枠を差し引く。  
これ以外の接続部の面積が1.0m<sup>2</sup>以下のか所の型枠の欠除はないものとする。

$$\begin{array}{l}
 \text{柱} \quad W 1.00 \times 4 \text{面} \times H 6.20 = 24.80 \\
 \text{壁} \quad t 0.20 \times H (6.20-1.10) = -1.02 \\
 \text{壁} \quad t 0.25 \times H (6.20-1.10) = -1.28
 \end{array}
 \left. \vphantom{\begin{array}{l} \text{柱} \\ \text{壁} \\ \text{壁} \end{array}} \right\} 22.50 \text{ m}^2$$

II—20

出題分野

ガイドブック 6 積算業務の実際 6.4 躯体 6.4.2 躯体の計測・計算 (5)柱 P.73、74

基準・解説 第4編 躯体 第3章 鉄筋 第2節 鉄筋の計測・計算 2 各部分の計測・計算 (2)柱 P.340

正答肢番号

3

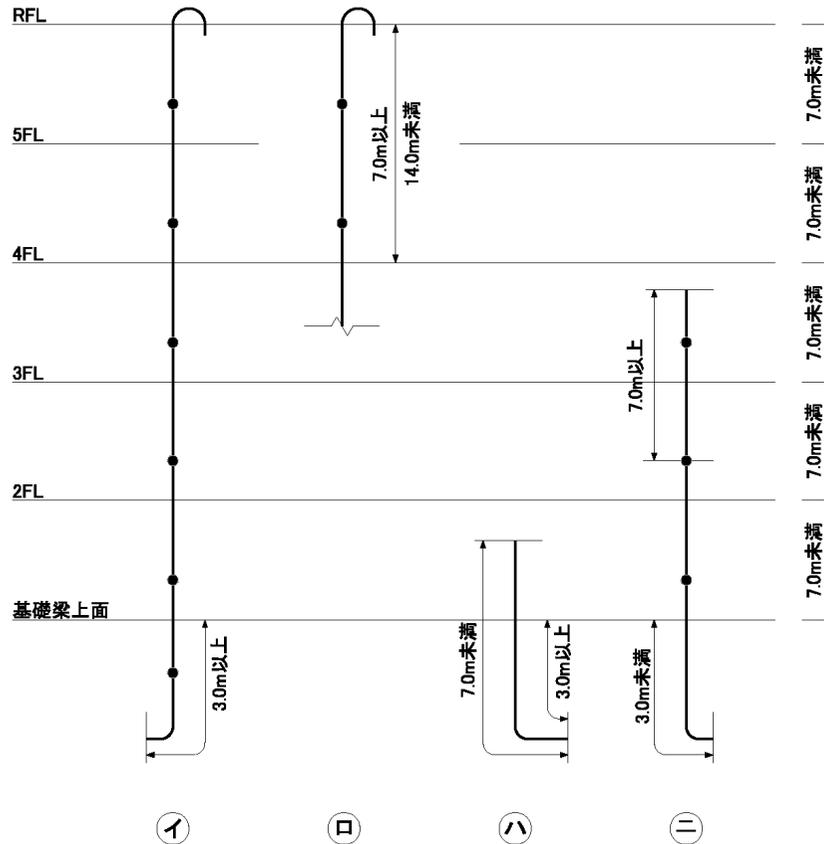
設 問

解 説

下図①~④における柱の主筋の継手の数量(か所)として、次のうち**最も不適切なもの**はどれか。なお、②の5FLは吹抜けとし、省略部分の継ぎ手は含まないものとする。

1. ① — 6か所
2. ② — 2か所
3. ③ — 0か所
4. ④ — 3か所

柱継手の数  
● 継手1か所



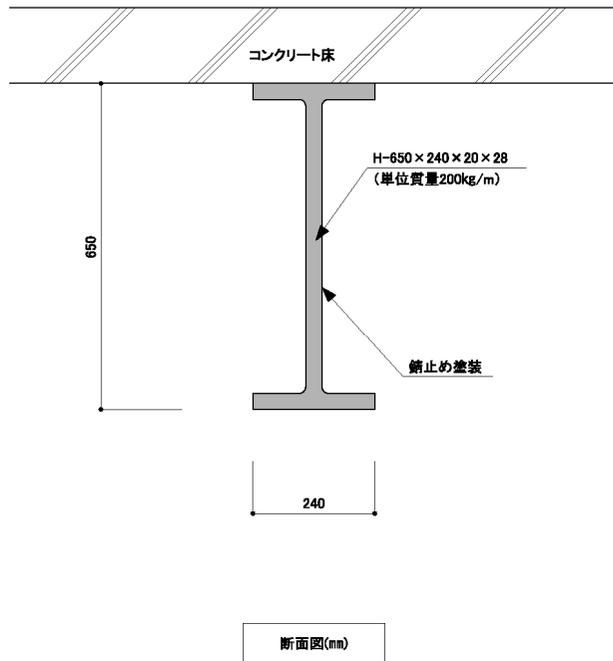
主筋の継手は、1 通則4)の規定による。  
 ただし、基礎柱については基礎柱部分の主筋の長さが3.0m以上の場合は1か所、その他の階の各階柱の全長にわたる主筋については各階ごとに1か所の継手があるものとする。  
 柱の途中で終わりまたは始まる主筋の継手については、1 通則4)による。  
 径の異なる主筋の継手は、各階1か所とし、その位置は床板上面から1.0mとする。  
 重ね継手の長さは、1 通則6)による。

設 問

解 説

下図の鉄骨梁の1トン当りの塗装の歩掛り数量(m<sup>2</sup>/t)として、次のうち**最も適切なもの**はどれか。

- (m<sup>2</sup>/t)
1. 9.90
  2. 10.10
  3. 11.10
  4. 11.30



コンクリートなどの被覆がされない場合は、錆止め塗装を行う。

WEB	0.65	×	2.00	×	5.00	=	6.50	}	9.90 m <sup>2</sup> /t
FRG	0.24	×	3.00	×	5.00	=	3.60		
WEB厚	0.02	×	2.00	×	-5.00	=	-0.20		

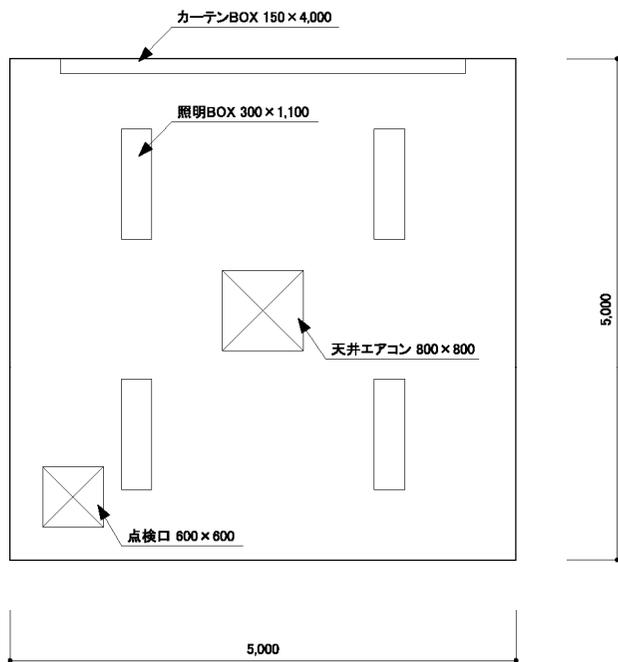
設 問

解 説

下図の天井仕上げの数量(m<sup>2</sup>)として、次のうち**最も適切なもの**はどれか。

- (m<sup>2</sup>)
1. 25.00
  2. 23.76
  3. 23.40
  4. 22.08

天井仕上：石膏ボード+EP塗



天井伏図(mm)

2) 器具類による欠除  
 衛生器具、電気器具、換気孔、配管、配線等の器具の類による各部分の仕上の欠除が1か所当たり0.5m<sup>2</sup>以下のときは、その欠除は原則としてないものとする。

$$A = 5.0 \times 5.0 - 0.15 \times 4.0 - 0.8 \times 0.8$$

$$= 23.76$$

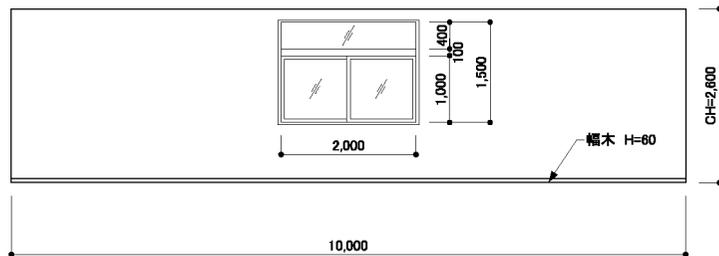
設 問

解 説

下図の内壁1面の壁EP塗り数量(m<sup>2</sup>)とガラス数量(m<sup>2</sup>)の次の組合せのうち、**最も適切なもの**はどれか。

	壁EP塗り (m <sup>2</sup> )	ガラス (m <sup>2</sup> )
1.	23.00	2.80
2.	23.00	3.00
3.	22.40	2.80
4.	22.40	3.00

壁仕上：石膏ボード+EP塗  
 幅木：ビニル幅木  
 ガラス：全てフロートガラスt=5



展開図(mm)

2 主仕上げの計測・計算  
 (2)欠除部分の処理  
 3)附合物等による欠除  
 面積が1か所当たり0.5m<sup>2</sup>以下の附合物又は高さもしくは幅が0.05m以下の幅木、  
 回縁、ボーダー等による各部分の仕上げの欠除は、原則としてないものとする。

3 材種による特則  
 (11)ガラス材  
 1)全面がガラスである建具類のガラスの数量は、材質、規格等ごとに、原則として  
 建具類の内法寸法による面積を数量とする。ただし、かまち、方立、棧等の  
 見付幅が 0.1 mを超えるものがあるときは、その面積を差し引いた面積とする。

壁EP塗り

$$\begin{aligned}
 A &= 10.0 \times (2.6 - 0.06) - 2.0 \times 1.5 \\
 &= 25.4 - 3.0 \\
 &= 22.4
 \end{aligned}$$

ガラス

$$\begin{aligned}
 A &= 2.0 \times 1.5 \\
 &= 3.0
 \end{aligned}$$

II—24

出題分野

ガイドブック  
基準・解説

6 建築積算業務の実際  
第6編 屋外施設等

第3章 屋外排水

6.13.4 屋外排水 P.166～167

P.353

正答肢番号

2

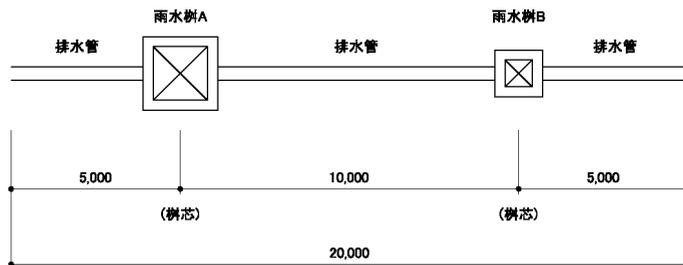
設 問

解 説

下図に示す20mの範囲の排水管の数量(m)として、次のうち**最も適切なもの**はどれか。

- (m)
1. 18.20
  2. 18.80
  3. 19.20
  4. 20.00

雨水樹A：内法寸法 800×800 壁厚150  
 雨水樹B：内法寸法 400×400 壁厚150  
 排水管：硬質塩化ビニル管 φ200



雨水排水平面図(mm)

排水管の数量は、材種、呼び径ごとに、接続する樹の内法寸法を減じた長さを計測・計算する。

$$\begin{aligned}
 L &= 20.0 - 0.8 - 0.4 \\
 &= 20.0 - 1.2 \\
 &= 18.8
 \end{aligned}$$